

安来高新聞



発行所：安来高校新聞部
〒692-0031
島根県安来市佐久保町115
TEL：(0854) 22-2840
FAX：(0854) 22-3612

バレーボール中国大会

バレーボール
男子中国2位
中国高等学校
バレーボール選手権大会
5月14～15日 山口

男女バレーボール部は県予選で見事優勝を果たし、中国大会に出場した。

男子バレーボール部は県予選では全ての試合で1セットも取られることなく、優勝を果たした。今回の試合では1年生の新人が2人入り、良い緊張感をもって試合をすることができたようだ。



整列する選手達



表彰されるキャプテンと副キャプテン

目標としていた優勝には届かなかったものの、準優勝という好成绩となった。中国大会についてキャプテンの井山創太さん（3年）

は「練習したことを出すことが出来、楽しんで試合をすることもでき、良かった」と話した。

女子バレーボール部は県予選では決勝の対戦で苦しむ場面があったものの、2セットともとることができ、優勝を果たした。県予選での勝因はレシーブにあり、我慢や粘り強さが勝利に繋がったようだ。

フェンシング
女子個人サーフル
中国1位 井塚千晶（2年）
中国高等学校
フェンシング選手権大会
5月7～8日 鳥取

男子団体 第4位
女子団体 第3位

今回の大会を振り返り顧問の永井宏尚先生は、「個人戦では、女子サーフルの井塚千晶の優勝が光った。他種目で



笑顔で賞状を持つ井塚選手

キャプテンの竹崎恭子さん（3年）は「県予選ではあきらめずに一つのボールを追うことができて良かった」と話した。

後日行われた中国大会では惜しくも3回戦で敗退した。精神面での強化が今後の課題だそうだ。

（愛）

の上位者は出なかったが、中国大会全体のレベルの差はあまり感じなかった」と話した。また、「男子団体はチームとしての勢いが発揮でき今後に繋がる試合が出来た。女子は初戦の西大寺（岡山）に好スタートを見せたが、リズムに乗れず敗退した。これから夏に向けて競技力とメンタルを養いたい」と話した。

（真）

井山創太選手の強化合宿



3月末に全国選抜の合宿に参加したが

とてもハイレベルな合宿だった。まわりにいた選手の人たちと一緒に練習をし、競い合えたため、もっと頑張ろうと思えた。また自分に足りないものを見つけた気がする。学ぶものの多い合宿でもあった。

（業）

佐久保発

ストレスと健康

ストレスがたまったらあなただっただら何をしようか。おそらく、自分の好きなことをしたり、寝たり、スポーツしたりなど、様々なことをするだろう。私の場合、紙を真っ黒に塗り潰してストレス発散をしたりする。これはけっこうおすすめだ。▼昔の私はストレスをためがちであった。わたしのように入念にストレスをためてしまう人はいると思う。ストレスがたまると、イライラしやすくなるなどの精神的症状、お腹が痛くなったなどの身体的症状など、様々な問題が出てきやすくなる。そのような問題が生じると生活に様々な支障がでる。そしてまた、その支障によってストレスがたまり、また様々な問題が起こると悪循環となる。このような悪循環を引き起こさないためには、ストレスがたまってしまったらきちんとストレス発散することが大切になる。ストレスを発散することで1回気持ちがリセットされ、新たな気持ちで過ごすことができるからだ。ストレス発散方法は自分に合うことをやればよいと思う。自分一人では解決しそうになかったら、親や先生、友達に相談したり、頼っても良いと思う。▼きちんとストレスと向き合い、適切に対処することで私たちは健康な生活を送れるようになる。

（愛）

JRC部はチューリップ祭りでもボランティアをしました



5月5日から6日の2日間にわたり「第21回やすぎ刃物まつり」が和銅博物館など各所で行われた。本校からは、ボランティアとしてJRC部の内田直登さん（3年）と清山将さん（3年）が参加した。清山さんは、「刃物まつりに参加したのは、今年で3年連続になります。現在、部長である内田君と2名で活動しています。3年生しかいないので興味のある方は、ぜひJRC部に入部してほしい」と話した。彼らの仕事ぶりは、パンフレットの枚数確認や来場者数の確認など非常に丁寧に行っており、彼ららしい真面目さや誠実さを感じることが出来た。彼らはボランティアという形で地域貢献を行っていることは言うまでもないだろう。

（真）

HIGHER HIGHER

～より上を目指して～

JRC部

地元イベントを

そつと支える

5月5日から6日の2日間にわたり「第21回やすぎ刃物まつり」が和銅博物館など各所で行われた。本校からは、ボランティアとしてJRC部の内田直登さん（3年）と清山将さん（3年）が参加した。清山さんは、「刃物まつりに参加したのは、今年で3年連続になります。現在、部長である内田君と2名で活動しています。3年生しかいないので興味のある方は、ぜひJRC部に入部してほしい」と話した。彼らの仕事ぶりは、パンフレットの枚数確認や来場者数の確認など非常に丁寧に行っており、彼ららしい真面目さや誠実さを感じることが出来た。彼らはボランティアという形で地域貢献を行っていることは言うまでもないだろう。

野球部

次につながる1本

春季中国地区高校野球大会 県予選（先月）



ヒットを打つ木戸選手

- 1回戦 松江高専 結果…勝利
- 7対0
- 2回戦 情報科学 結果…勝利
- 6対0
- 3回戦 大東 結果…敗退
- 5対6

大東戦について國分監督は「9回裏2アウトから2点差を追いつく成長を見せた」と語る。一方、庄司光一キャプテン（3年）は「大東高校には勝てなかったため結果には満足していない。途中まではリードしていたが途中から追いつかれてチーム内の空気が悪くなった。その悪い空気を自分たちで変えることができなかった」と悔しさをにじませた。

（業）

陸上部

出雲陸上競技大会（先月23～24日浜山公園陸上競技場） 総体に向け“勝ちに行く走り”を！

今回の大会を振り返って野坂祐希さん（2年）は、今回見つけた課題を克服して最後の大会で納得のいく走りをしたと語った。

スタート前の様子は、周りの選手一人一人が集中して走りやすい雰囲気だったそう。改善していききたことは、走っている最中



（業）

硬式テニス部

個人6位

西田愛美選手（3年）
4月16日、17日に松江及び安来運動公園でテニス個人選手権松江地区予選が行われた。

男子個人は朝山貴俊選手（3年）が106人中6位、女子個人は西田愛美選手（3年）がベスト8入りを果たした。男子ダブルスは朝山・本田ペア（3年）、野坂・足立ペア（2年）がB16をかけたが惜しくも敗退した。

（柚）

良い緊張感をもって 中国大会県予選（4月30～5月1日カミアリーナ）

卓球部

男子団体

安来1-3

松江農林

個人ダブルス

田邊優磨・中西輝（3年）ペア

5回戦敗退

結果…ベスト16

キャプテンの田邊選手は「ダブルスでは自分

に気持ちで負けないこと、もう少し勝ちにいく走りをする」と話した。

（業）

県選手権

決勝進出 高橋昂大（3年）八〇〇M3位 和田大祐（3年）やり投げ8位



スマッシュを狙う安高選手（右）

ソフトテニス部

1球1球を大切に 女子団体B8

中国大会県予選(先月28~30日) 浜山運動公園



円陣を組み士気を高める選手達

男子は、1年生のみだが、がんばった。「個人でも、団体でもあまり勝つことができなかった。次の試合ではみんなが、1勝はできるように頑張っていきたい」とキャプテンの後藤大輝さん(1年)は語った。

女子は、ダブルス田中日菜実・佐々木楓ペア(3年) 矢田陽菜(3年)・石田沙妃(2年) ペアがベスト32、団体戦では松江西高(優勝校)とほぼ互角の戦いをし、敗れてベスト8だったが次に向けて弾みがついた。また、無敗だった松江西高のペアに佐々木・田中ペアが勝利した。佐々木さんは「勝てた時はすごく嬉しかった。最後まで強い気持ち

で、確実に打ち返すように心掛けた」と語った。田中さんは「相手が無敗だったこともあり、かえってプレッシャーを感じず試合ができた。特に、ミスが目立っている方にどんどんあたっていく、攻撃的にプレーした」と語った。コーチの吉村憲治さんは「技の面では基本を大切にすることを大切にしている。精神面の士気を教えている。精神を大切にしている。人間的に成長してほしい」と語った。キャプテンの石井あゆみさんは、総体での目標について「全員が今回の中国大会以上の結果を残せるようにしたい」と語った。(友)

ソフトボール

次につながる一戦

中国大会県予選(先月23~24日) 雲南市

男子4・15三刀屋高校

キャプテンの藤原大河さんは「ここぞというときに守ることや攻めることができず、点差が開いてしまった。まだチームとしてつながっていないところもあるから、次につながるようなバツティングをみんなが意識して、ピッチャーを中心にチームプレイをしたい」と語った。また、新入部員については「とてもがんばってくれている。」と語った。

女子1・23大社高校

「今年は19人も新入部員が入ってくれて部内がとてにぎやかになり、人数が増えたため単独のチームでの試合が久しぶりにできたので嬉しかった。次の大会は三年生にとっては最後の大会になるため、一勝はしたい」とキャプテンの田邊万喜子さんは語った。(友)



バスケットボール部

集中力を勝利へ

バスケットボール中国大会 島根県予選(先月16日) 金城町総合体育館

4月16日に金城町総合体育館でバスケットボール中国大会島根県予選が行われた。男子は一回戦、平田高校と対戦し56対55で接戦を制したが、二回戦、松江高専と対戦し20対11で敗れた。女子は一回戦、松江

農林と対戦し終盤での増本キャプテンの3Pなどで14点差を追う状況から逆転し51対43で勝利した。二回戦は明誠高校と対戦し29対106で敗れた。

女子バスケット部キャプテンの増本光さん(3年)は「試合終盤でピッチの状況でも諦めず集中力を切らさなかったことが勝利につながったと思う。今後の課題はリバウンドなどディフェンス力を向上させること。総体ではまず一勝一回戦を突破したい」と笑顔で語った。(柚)

新聞部

各校新聞部員一緒に新聞作りの腕磨く

安来、出雲、大田3校の新聞部員が松江シティFC・松江市民総合体育館を取材

4月22~23日



取材をする新聞部員

松江シティFCでスポーツ文化振興松江シティFCは「2016年までにJFL昇格、2020年までにJリーグへ参入」という目標を掲げ、「地域にスポーツクラブを核としたスポーツ文化の振興」の実現に向けて取り組んでいるチームだ。若手のホープでDF(ディフェンダー)の酒井隆也さん(23)は「チームの人が良く接してくれ、サッカーに対しても情熱的だ」と話した。また、このチームに入った理由について「熱い勧誘をして

てくれて自分を必要としてくれていると感じたので、恩返しをしたい」と真剣な眼差しで答えた。(真) 多くの工夫 新総合体育館 松江市に完成した新総合体育館には様々な工夫がある。ギャラリがガラスで透明にできているところがあり、車いすの方や小さな子供も楽しく試合などを観覧できる。これらの機能をきちんと活用するには災害時に訪れやすい地域と密着した体育館にしておくことが大切だ。そこに住む人々が松江市民体育館について理解を深めていけば、いざという時より多くの人の命を救うことができるだろう。(柚)

松江シティFCでスポーツ文化振興 松江シティFCは「2016年までにJFL昇格、2020年までにJリーグへ参入」という目標を掲げ、「地域にスポーツクラブを核としたスポーツ文化の振興」の実現に向けて取り組んでいるチームだ。若手のホープでDF(ディフェンダー)の酒井隆也さん(23)は「チームの人が良く接してくれ、サッカーに対しても情熱的だ」と話した。また、このチームに入った理由について「熱い勧誘をして

ようになっている。そしてこの一番のポイントが三階にランニングコースがあり、雨の日でも走れるようにしたことだ。このランニングコースは山陰初の試みである。この工夫には多くの人が喜んだそうだ。また、体育館では珍しい授乳室が四つもある。これはここに来る小さい子供がいるお母さんなどに配慮して作ったそうだ。(愛) 命を支える新体育館 松江市民総合体育館の特色の一つに災害に対する備えが強化だという点が挙げられる。建物は通常の体育館より強度が高く、水害時の被害を防ぐために旧体育館より高い場所に建てられている。また、メインアリーナには備蓄倉庫があり被災者が数日間生活できる食料や毛布が備えられている。停電時には自家発電装置が作動し、すぐに照明がつく。停電時にも使用できるコンセントもある。これらの機能をきちんと活用するには災害時に訪れやすい地域と密着した体育館にしておくことが大切だ。そこに住む人々が松江市民体育館について理解を深めていけば、いざという時より多くの人の命を救うことができるだろう。(柚)

宿泊施設「ひろせ」にこめられた思い

安来市内見立高校 共同宿泊施設

広瀬町に安来高校生と情報高校生のための共同アパートが誕生した。今年4月から利用可能となっている。このアパートは安来市から無償で提供された建物である。このプラン作りに奔走された安来市役所の岩田泰斉さん(57)にインタビューした。

元々は広瀬町内の専門学校であったが、専門学校生の寮の利用



共同アパートの外観



キッチンの様子

が減ってきたことにより、空いていた寮のひとつが本校の校長の提案により安来高校生と情報高校生との共同アパートとして利用することが決定した。なぜ無償で提供されることになったかという使用わなくなった建物を有効活用したかったこと、島根県は少子化が著しく目立つため活力を求めていることからである。

だが、今回の取り組みには困難が多かった。しかし地域に、市内の高校を支援しようという雰囲気があり、地元業者さんが快く協力してくれ、実現することが



熱心に語る岩田さん

出来た。各室内にはバス・トイレ、キッチン、エアコン、勉強机があり、また、安全対策として防犯カメラ、フェ



入居者の石橋幸大さんと山本晃生さん

生徒会執行部メンバー

生徒会長	岩崎 元嗣	3-3
副会長	岩田有夢	3-2
書記	周藤葵	3-3
会計	原陸斗	3-3
文化委員長	井山 創太	3-4
企画委員	青山 隼也	3-3
	門本 康太	3-3
	山尾 緋	2-2
	細田 夏望	2-3
総務委員長	田中 日菜実	3-3
環境美化委員長	作野 耕平	3-1
交通安全委員長	廣江 良太	3-1
図書委員長	本田 琉真	3-1
情報委員長	和田 大祐	3-1
人権委員長	安部 陸也	3-2
ボランティア委員長	増本 光	3-3
体育委員長	高橋 昂大	3-4
保健委員長	中尾 晃介	3-4
家庭クラブ委員長	長谷川美空	2-2

生徒会発足



笑顔で語る岩崎元嗣 生徒会長

生徒の毎日がもっと楽しくなるような学校づくりを目指す

4月18日に生徒会長立会演説会があり、生徒会長選挙が行われた。信任投票の結果、岩崎元嗣さん(3年)が新生徒会長として信任された。岩崎さんは、「生徒全員が楽しいと思えるような学校を作りたい。これから学校をよりよく

ンスそして夜の見回りがあ。また、災害時に備えての安全な対処も検討がなされている。実際にここで生活している1年生の石橋幸大さんと山本晃生さんはバレー部に所属して頑張っている。山本さんは「親はアパートで一人暮らしすることを心配していたが、今は応援してくれている。同じようにアパートを

利用している人とも仲良くなり、毎日を楽しく過ごしている。寮のご飯はいつも近所のお弁当屋さんが暖かいものを持ってきてくれる。でも土曜日と日曜日の夜ご飯だけは自分で作るようにしている。また、学校での昼のお弁当は井山先生の奥さんの作ってくれたお弁当を食べると爽やかに話した。(業)

*アパート名「ひろせ」は仮称



ある日の夕ご飯

編集後記

大江珠美さん(2年)が困基全国選抜県予選で優勝し、7月26、27日に東京で開催される全国選抜への出場を決めた。是非、がんばってほしい。

そして最後に、蒼輝祭を今までにないくらい楽しいものにする抱負を熱く語った。(業)